

2025年5月度中部品質工学研究会議事録

- 開催日時 2025/5/10 (土) 10:00~16:00
- 開催場所 アイテックインターナショナル
- 会員参加者<敬称略> S: オンサイト出席・L: オンライン出席、欠: 欠席、書: 書記、休: 休会

大見	S	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	S	出島	S	水田	S
山口(展)	S	黒田	S	鈴木	S	池田	S	山口(直)	S	前田	書	木村	S	藤井	S
北村専務	L														
小西	休	中山	休	李	休	河合	休	則尾	休	杉浦	休	福田	休		

4. 研究会内容

1) 「事例相談」(木村)

内容非公開

2) 品質工学教材開発の検討

パラメーター設計の教育に使う「実験教材」の開発に向けて、既存教材を実際に使用して問題点や改善方法について議論を行った。教材には「コマ」と「紙コプター」を用い、2グループに分かれて演習を実施した。

「紙コプター」の演習では、形状/紙の種類/作成者（各2水準）で三元配置実験を実施し、誤差因子と製造ばらつきの分散を比較した。機体は2mから落として着地までの時間をスマホビデオ機能で計測した。計測精度は十分である。作成者の差があるが、制作指針にない曲げ角度の違いによると判明した。

次月に、同じ因子で再度実施する。その際曲げ角度は治具で精度よく製作する。

「コマ」の演習では、一度教材を体験してみるという目的でL18直交表を用いて実験した。制御因子は材質、軸長、軸先形状、位置、回転方向とした。実験後に最適条件で確認試験を行った結果、実験値と理論値で1%程度の差しかなく良好な結果が得られた。参加者から、コマを回す土台の傷やコマの回し方、コマの作成方法が結果のばらつきに寄与しているように感じるとの意見があった。また、経験者からは業務で使用していると結果が再現しないことがあるとの意見があった。再度実験を計画し、これらの意見を検証していく。

3) 事務局連絡

①今期合宿：合宿の日程を決定。11月8—9日、場所はあいち健康の森プラザホテルとした。

②事例・テーマ相談：各自の予定を確認。

③対外関係：5/9 関西・広島・中部合同研究会を実施した。各研究会が1課題づつ発表。

シンポジウム、業務改善事例発表大会(10/22)について発表者候補を確認。

第33回品質工学研究発表大会の研究会資料を確認。